

#### 4. 職員研修

(1) 平成24年度公立大学協会図書館協議会研修会(京都府立大学)

- ① 主催 公立大学協会図書館協議会
- ② 担当 京都府立大学(近畿地区)
- ③ 趣旨 大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識・能力の向上を図る。
- ④ 日時 平成24年9月7日(金) 11:00~16:00
- ⑤ 会場 御所西 京都平安ホテル
- ⑥ テーマ 「求められる大学図書館像 — 教育支援・学習支援 —」
- ⑦ 参加 38大学 54名
- ⑧ 日程 基調講演 「大学図書館のミッション・業務の再点検：  
教育支援・学習支援の観点から」  
天理大学 人間学部准教授 古賀 崇 氏  
事例報告1 「教育工学から考える、大学図書館における学習支援：  
何を、どのように学習支援すべきか」  
金沢大学 大学教育開発・支援センター  
准教授 山田 政 寛 氏  
事例報告2 「真正の学習支援につながる情報リテラシー教育  
—何を知り、どう実践すればよいのか—」  
同志社大学企画部企画室企画課長 井上 真 琴 氏
- ⑨ 報告 研修会の内容を取りまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載
- ⑩ 研修会決算報告

収 入	研修会予算	250,000円
	利 息	10円
	合 計	250,010円

支 出	講師謝礼	60,000円
	講師旅費	17,000円
	講師昼食代	3,900円
	会場使用料	130,765円
	合 計	211,665円

残 高	返 還 額	37,715円
	【残額38,345円-630円(振込手数料)】	

## (2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主催 国立大学法人筑波大学
- ② 日時 平成24年7月2日(月)～7月13日(金)
- ③ 会場 筑波大学春日エリア情報メディアユニオン2階 情報メディアホール  
[7月13日のみ第一エリア(中地区)筑波大学附属図書館(中央図書館)]
- ④ 受講者 国立大学ならびに大学共同利用機関法人30名、公立大学1名、私立大学5名  
計36名
- ⑤ 研修報告

### 平成24年度 大学図書館職員長期研修参加報告

青森県立保健大学附属図書館 山田 奈々

平成24年7月2日から13日の間、筑波大学春日エリア情報メディアユニオンを主会場に平成24年度大学図書館職員長期研修が開催され、全国から36名が参加した。図書館マネジメント総論8科目、学術情報流通等各論13科目、演習・班別討議等の各科目を受講した。講義資料は下記ホームページに掲載されているため、ここでは印象に残った講義について述べる。

講義資料：<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2012/text2012.html>

#### <図書館マネジメント総論>

##### 「私立大学図書館の経営」

私立大学の経営については、2006年頃には少子化の影響で10年以内に100大学が経営破綻するという予測があったが、2009年に18歳人口の減少が一旦止まり、120万人程度の安定期となったため、予測は外れた。しかし、2020年以降は再び18歳人口の減少期に入り、2050年頃には18歳人口が80万人程度となるという厚生労働省の人口予測があることから、これからが大学の正念場といえる。アメリカでは、1980年代に18歳人口が減少して大学が経営破綻したが、1990年代には18歳以外のパートタイム学生を増やして対応したという事例があり、参考になる。また、アメリカの大学図書館が大学の授業と密接にかかわったことにより発展したという事例が日本の大学図書館の今後の活動を考える手がかりとなると思われる。

##### 「大学図書館職員の新たな役割」

日本の大学は平成20年の中教審答申「学士過程教育の構築に向けて」で研究から学習へのシフトを行った。このことから、大学図書館員に求められる役割は授業の密接な連携や学生の能動的学習のサポートとなるため、新たな研修やノウハウの蓄積が必要になると思った。

#### <学術情報流通等各論>

##### 「大学図書館の学習支援」

ラーニング・コモンズの運営にあたり、学習理論に立脚した学習支援プログラムを企画・立案する必要があることから、大学図書館員には従来以上に学習科学や教授法についての知識やスキルが求められていることが理解できた。

<演習・班別討議>

1週目には事前課題で提出した職場での困りごとをもとに、問題発見の手法を演習形式で学んだ。2週目には各班で具体的な問題を設定し、解決策のプレゼンテーションを行った。私の班は一般的な図書館業務に留まった内容だったが、他班の発表には従来の図書館の枠組みを出てさらに研究者との協働を進めるといった内容のものがああり、提案の中に描き出された生き生きとした図書館員像が印象的だった。

<おわりに>

充実した講義内容の長期研修を通じて他大学図書館職員から刺激を受け、研修後もメーリングリストやFacebookで情報交換できる関係を築けたことが大きな収穫でした。同世代の職員の前向きな姿勢に励まされ、自館の業務を見直す貴重な契機となりました。

最後になりましたが、長期研修に参加する機会を与えてくださった公立大学図書館協議会に心よりお礼申し上げます。また、研修期間中の業務をサポートしてくださった職場の皆様に感謝いたします。

平成 24 年度大学図書館職員長期研修日程

7 月	午 前			午 後	
	9:15～10:45		11:00～12:30	13:45～15:15	15:30～17:00
2 月	受付 9:30	10:00 オリエンテーション	11:30～ 開講式 文部科学省講話	大学と大学図書館 古田 元夫 東京大学附属図書館長	大学経営の課題 吉武 博通 筑波大学教授
3 火	問題発見・解決演習		問題発見・解決演習	問題発見・解決演習	問題発見・解決演習
4 水	問題発見・解決演習		問題発見・解決演習	問題発見・解決演習	問題発見・解決演習
5 木	国立大学図書館の経営 田中 成直 東京大学附属図書館事務部長		私立大学図書館の経営 鈴木正紀 文教大学越谷図書館課長補佐	研究者のアクセス手法 I 江夏 由樹 一橋大学附属図書館長	オープンアクセスと 機関リポジトリ 栗山正光 常磐大学准教授
6 金	経営学入門 I 佐野享子 筑波大学准教授		経営学入門 II 佐野享子 筑波大学准教授	研究者のアクセス手法 II 中山伸一 筑波大学附属図書館長	班別討議
7 土					
8 日					
9 月	図書館建築と設備 植松貞夫 筑波大学教授		学術情報コミュニケーションの動向 熊淵智行 国立情報学研究所 学術基盤推進部図書館連携・協力室長	電子図書館マネジメント 宇陀則彦 筑波大学准教授	古典資料の保存と利用 綿抜豊昭 筑波大学教授
10 火	大学図書館職員の新たな役割 竹内比呂也 千葉大学附属図書館長及び アカデミック・リンク・センター長		利用者の情報行動 逸村 裕 筑波大学教授	大学図書館の学習支援 井上真琴 同志社大学 企画部企画室企画課長	班別討議
11 水	図書館と法 石江夏生利 筑波大学准教授		公立図書館の戦略 新谷迪子 千代田区立千代田図書館長	大学評価と大学図書館 土屋 俊 大学評価・学位授与機構教授	班別討議
12 木	国立情報学研究所の戦略 尾城孝一 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長		企業理念にみる 顧客サービス 上田君夫 スターバックスコーヒー ジャパン株式会社 営業本部	班別討議 発表	班別討議 発表
13 金	対人ストレスマネジメントとしての ヒューマン・リレーションスキル 橋本佐由理 筑波大学准教授		筑波大学中央図書館 見学	閉講 式	

会場：筑波大学春日エリア 情報メディアユニオン 2階 メディアホール

7月13日（金）は、第一エリア（中地区） 筑波大学附属図書館（中央図書館）